

F L Y I N G F I S H

51

2012 SUMMER

[フライイング
フィッシュ]



INTERVIEW

松本泰典 准教授

地域を消費者につなぐ

一次産品に価値を生み出す
新技術をめざして

NEWS

研究成果を世界に発信!

「第8回国際シンポジウム」 SSMS2012 in台湾

はじめの一歩を応援したい!
学生主催のチャリティ運動会
「Charity Sports Festival 2012」

気軽に国際交流!
「ランチアワー」で
留学生とコミュニケーション

KUT INFORMATION

特別推薦入学者激励会/第9回オーライ!ニッポン大賞「フレンドシップ賞」を受賞/「タオルプロジェクト」をマネジメント/「交通安全キャンペーン」に協力/「土佐の町家雛まつり」に参加/本学図書館と香美市立図書館が相互協力協定を締結/就活用メイクセミナー実施/平成24年度入学式挙行/教職課程公開シンポジウム開催/学生主催の新入生歓迎会/ソフトボール部が全国大会出場権獲得!/安徽大学訪問団が来学/卓球部が四国学生卓球選手権大会で活躍!/シカ被害防止活動に参加/バレーボール部が四国大学リーグでI部昇格!/天文部による金環日食イベント/佐久間学長が「本多記念賞」を受賞/留学生が日本文化を体験/オープンキャンパス2012

表紙のコトバ=とれたてがウマイ!

無類の魚好き松本先生が開発した装置は魚をとれたてに保つスグレモノ。みんなにおいさとハッピーをお届けするため今日も先生は奔走する!



地域を消費者につなぐ

一次産品に価値を生み出す 新技術をめざして

魚を瞬間冷却する 究極技術

「装置ってすごくかわいそうだと思います」。ものづくり先端技術研究室の松本泰典先生はこう切り出した。日常生活で私たちが目にするのは、出来上がったものばかり。どんな装置を使い、どんな工程でつくられたのかは、知る由もないし、探ろうともしない。「産業系の装置は、表舞台に立つことはありませんが、絶対に人が使うものです。使い勝手のよい、人の役に立つ装置をつくらないと、何の意味もない」。機械設計のエキスパートである松本先生が、装置開発の先に見ているのは、まぎれもなく人である。

松本先生は大阪出身だが、高知には馴染みがあった。母親が高知生まれ、父親が高知大学出身で、先生自身も同大学理学部、大学院と進む。卒業後は県内企業に就職し、特殊車両の設計を行う。そこで、本学と共同研究を始めたことが転機となる。「企業では開発より利益を優先せざるを得ないこともありましたが、それ

も大事なことです。せっかくなら、大学で腰を据えて研究に没頭したいと思っただけです」。

2003年に本学の助手となり、翌年から2つの企業とスラリーアスの共同研究を始める。スラリーアスとは魚の鮮度保持に利用されるシャーベット状の氷のこと。2008年に商品化された、魚を冷凍させずに急速冷却できるスラリーアスの製造装置は、2011年に日刊工業新聞社の「モノづくり連携大賞」を受賞するなど、注目を集めている。

現場の声が大きな転機に

当初の目標は海外製の装置のコストダウンだったが、現場で聞いた話をきっかけに、方向転換することになる。「高知県の水産試験場の方から、『塩分が高いので、魚が凍ってしまう。塩分が少ないスラリーアスがあったらいいのに』と言われました。その時は聞き流したのですが、後日大阪の冷凍機器メーカーさんから同じことを聞いたんです」。

塩分濃度が高くなるにつれ、水溶液の凝固温度は低くなる。塩分濃度が3.4%の海水からつくられる従来のスラリーアスは-3℃近く。調べると、多くの魚は-1℃より低い温度で凍結することがわかった。「凍ると味が落ちてしまう。そこで、魚が凍らない“-1℃以上のスラリーアス”に狙いを定めました」。無類の魚好きである松本先生の「どうせなら、おいしい魚を食べたい」という思いが開発



中土佐町の研究施設に設置されているスラリーアス製造装置。円筒タンクの表面に氷の膜をつくり、金属製の刃でかきとる仕組みだ。



漁師が選んだ魚をスラリーアスで急速冷却し、今後中土佐町は「びんびブランド」として商品化していく。冷凍では実現できない究極の味わいだ。



びんびブランド商品の第一号は「鮭のたたき」。カツオ4～5人前、3種のタレ、薬味などがセットで、5,000円（税込み、送料別）。

も後押しした。

塩分濃度を1%まで薄めた海水から製氷することで、-1℃の氷粒子をつくることに成功した。ひと粒0.2mm程度の微細な氷粒子は、普通の氷に比べて、魚に触れる表面積が大きく、急速に冷却できる。さらに塩分濃度1%は魚体表面の浸透圧に近いので、水分の出入りが少なく、魚体が漁獲された状態を維持した保存も可能になった。

「地域での装置開発は、つくる人と使う人の距離が遠かった。でも、ヒントは現場にたくさんあります。それを見極め、地域とどう取り組んでいけるのか、毎日が挑戦です」

地域の役に立つ装置へ

現在は、全国約20カ所の漁協や養殖業者などで導入されている。高知県では、中土佐町と土佐清水市のほか、今年度には室戸市にも設置される。県内で真っ先に手を挙げた中土佐町には2009年に研究施設をつくり、魚をもっと価値あるものとして消費者に届ける仕組みづくりを、地域の人たちと一緒にやってきた。そこには、「装置をつくるだけでは、何にもならない」という松本先生の思いがある。「僕自身、最初は設置したら後は好きなように使ってくださいというスタンスでした。でも、それではせっかくの装置が報われないことに気付いたんです」。装置をどう利用すれば、魚の価値を上げて、地域の役に立てるのか。松本先生は常にその先のことを考えている。中土佐町の人たちと

は遠慮なく何でも言い合える関係ができている。それは松本先生のあたたかく謙虚な人柄あってこそだ。



中土佐町水産商工課の多田昭介さん（左）、中土佐町地域振興公社の中越竜夫さん（右）。一緒に「びんびブランド」の事業を進めてきた同志だ。

素材を活かす凍結濃縮

最近では、新たに「凍結濃縮」の研究を始めている。スラリーアスの評判を聞いた食品メーカーから「この技術で、だしの濃縮ができないか」という話があったことがきっかけだ。

砂糖や塩を溶かした溶液では、氷となるのは水分子だ。つまり、溶質は液中に残り、氷を除いた溶液は濃度が高まる。熱や圧力を加えずに濃縮できるこの方法は、香

りや成分が損なわれないのもメリットであり、果汁などの濃縮にも適している。現在事業化されている海外製の装置を小型化し、多品種生産にも適することが目標だ。今後、高知県内企業や高知工業高等専門学校、高知県工業技術センターと連携を図り、装置開発を進める予定である。

松本先生のフィールドは、海だけでなく、山々にまで広がる。「地域の活性化に答えはありません。今は自問自答しながら懸命にもがいているところです。自分のつくったものに責任を持って、使う人たちと使い方を現場で一緒に考えてこそ、装置も生きてくる。そのことで、みんながハッピーになれたらいいですよね」。無機質な装置も松本先生の手には掛かれれば、そこに「人の顔」が見えて来る。



「びんびカツオ」は、中土佐町の温泉宿「黒潮本陣」に併設されたレストランのメニューになっている。一人前1,350円（2012年6月現在の値段）。

これぞ天職！
生粋の釣り好き！

根っからの釣り好き松本先生は、両親に連れられて、子どもの頃から高知によく遊びに来ていた。釣りデビューは小学校の頃で、父親と一緒に中土佐町でも釣りをしていたというから、これも何かの縁を感じずにはいられない。ここ最近は研究が忙しく、釣りに行くこともままならないというが、「魚がすぐ身近にある今の研究は、まさに天職です」と笑顔を見せる。

松本泰典



松本泰典 准教授

地域連携機構 連携研究センター
ものづくり先端技術研究室

現場に入っこそ
装置が活きてくる

TOPIC 01

研究成果を世界に発信! 「第8回国際シンポジウム」

SSMS 2012 in 台湾

2012年5月2日(水)から5日(土)までの4日間、本学発の国際シンポジウム「SSMS2012」を台湾・高雄市で開催しました。那須清吾教授(マネジメント学部長)が世界に先駆けて提唱する「社会マネジメントシステム学」は、工学のみならず社会科学や人文科学など既存の学問を理論的に統合するとともに、私たちの安全や生活の向上に役立てるための実践的な学問です。2004年には文部科学省から卓越した研究拠点(21世紀COE=Center of Excellence)に採択され、世界中から多くの研究者や行政のリーダーが本学を訪れ、最新の情報が世界に発信されるようになりました。

今回はテーマは「防災・減災害・復興」。舞台は首都・台北ではなく、2009年のモラコット台風による台湾史上最悪の災害となりながらも、実質2年という驚くべき速さで市民生活の復興を成し遂げた台湾南部の中心都市・高雄としました。

本学からは岡村甫理事長および佐久間健人学長をはじめ、約40名の教職員・学生が参加しました。15名の大学院および学部4年の学生たちは、日頃の社会マネジメントシステム分野の研究成果を英語で発表し、高い評価をいただきました。また、防災研究の世界的権威6名による講演が行われ、日本からは、首藤伸夫・東北大学名誉教授(津波防災)および尾本彰・東京工業大学教授(原子力安全)が基調講演を行いました。

今回の運営に多大な協力をいただいた台湾政府の機関であるモラコット台風復興委員会(日本政府の復興庁に相当)の陳振川・公共建設大臣は、国立台湾大学にて土木工学を専門とする教授でもあり、本学とは長年にわたって活発な研究交流を行ってきました。現在は「社会マネジメントシステム学会」の会長を務めています。

会議終了後には復興現場を視察する機会をいただきました。参加者一同、陳大臣の強力なリーダーシップによって成し遂げた復興の目の当たりにし、社会マネジメントシステム学の理論と実践の両立に深い感銘を受けました。

頻発する大規模な自然災害により、私たちの生活空間が脅かされています。そのような脅威に立ち向かうには、個々の学問分野の枠を超えた実践的な取り組みが不可欠です。社会マネジメントシステム学の重要性がますます高まっているといえるのではないのでしょうか。

今回が8回目となる社会マネジメントシステムに関する国際シンポジウムは、これまでに高知で5回開催。同分野の国際的な広がりにより、昨年のスリランカ・コロomboを皮切りに海外での連続開催となりました。今回の開催にあたっては台湾政府の全面的な協力をいただき、開会式には馬英九総統(大統領)が出席。モラコット台風復興委員会、台湾第一の教育研究機関である国立台湾大学、建設系の実務研究を主導する台湾建設研究所および本学の共催となり、19カ国400名以上が参加する盛大な国際会議となりました。



開会式でスピーチする馬英九・台湾総統



レセプションパーティーでは、現地の方々による歓迎セレモニーが盛大に行われました。



シンポジウムの風景



地元報道局のインタビューに答える岡村理事長と陳振川大臣



スポーツでスッキリ!

白熱した競技にハラハラ、ドキドキの連続。学生たちのイキイキした顔が印象的!

TOPIC 02

はじめての一步を応援したい! 学生主催のチャリティ運動会

「Charity Sports Festival 2012」

学生ボランティア有志によるチャリティ運動会「Charity Sports Festival 2012」が、5月19日(土)に本学にて開催されました。

このイベントは、①スポーツを通じて、普段は交流の少ない他学年・他学群(学部)の学生らと親睦を深め、②学生自身のやる気を引き出し、③1,000円という参加費をチャリティ募金とすることで「どんなことも社会貢献活動に繋げることができる」ことを知るという3つの目的で企画されました。学生たちの「はじめての一步」を応援したいという思いが込められています。学生有志が、学内で参加を呼び掛け、当日は留学

生を含む本学学生157人が参加しました。

障害物リレーやムカデ競争、騎馬戦、チーム対抗リレーなど中高生時代を思い出す懐かしい競技にみな無我夢中で取り組んだり、声を張り上げて応援するなど、大きな盛り上がりを見せました。「学年・学群(学部)の垣根を超えて、たくさんの笑顔に出会えました。このイベントを通して、学生のみなが「何かしてみよう」と思ってもらえれば嬉しいです」と主催者の代表、川島友李亜さん(マネジメント学部3年)のこのイベントの成功を実感しているようでした。



どの競技にも重心に返って取り組む姿は真剣そのもの。この日ばかりは、先輩後輩も同じ目標に向かう「仲間」です。



今回の参加費は「Ship for shipプロジェクト」の支援金として寄付されました。

Ship for shipプロジェクトとは? 東日本大震災で大きな被害を受けた日本一の赤貝の産地、宮城県名取市関上地区地区の復興を願い、始動しました。本学の学生もその思いに賛同し、現在も支援を続けています。

気軽に国際交流!

TOPIC 03

「ランチアワー」で留学生とコミュニケーション

5月17日(木)、本学学生会館のラウンジにて、日本人学生と留学生の交流推進および国際的人材の育成を支援する活動の一環として「ランチアワー」が始まりました。

昼食を持ち寄って気軽に会話し、コミュニケーションを図ることを目的に開催された同イベントには、多くの留学生と国

際交流に興味のある日本人が参加しました。英語に自信がない学生たちも、持っている語学力を最大限に発揮し、時にはジェスチャーで表現するなど、留学生との会話を楽しんでいる様子でした。今後も定期的な開催を予定しています。



実際に話してみることが語学力アップの秘訣です。いつものランチタイムを有意義な時間に!



KUTの学生たちが取り組んでいる様々な活動や、先生方の研究成果等を一挙に報告します！



部活動の活性化と飛躍を！ 特別推薦入学者激励会

4月24日(火)、「平成24年度特別推薦入学者激励会」が開催され、高知県卓球協会の青木会長を始めとする来賓の方々に、昨年度特別推薦入学者も参加して、総勢100名が一堂に会しました。特別推薦入試制度は、重点スポーツ分野等において一定の実績をあげた者を対象に平成23年度から導入された試験区分で、初年度は27名、平成24年度は36名が入学しています。

岡村理事長からは「健全なるアマチュア精神で部活動に励んでほしい」という言葉があり、学生たちは「心身ともに鍛えられる」という部活動の意義を、改めて実感しているようでした。会場には料理が用意され、アカベラサークル「KOCO'A」が本学の応援歌を披露するなど、終始和やかな雰囲気でした。

団体によっては、率先して来賓の方々に挨拶する姿見られ、競技として成果を挙げるだけでなく、すべての学生の手本となろうという意欲が垣間見られました。これからの学生団体活動の活性化とさらなる飛躍を期待します。

第9回オーライ！ニッポン大賞 「フレンドシップ賞」を受賞

本学は、札幌学院大学、法政大学、沖縄大学とともに、文部科学省「大学教育充実のための戦略的連携支援プログラム」全国の地域で活躍できるプロフェッショナル「まちづくりリスト」育成プログラムに取り組んでいます。その中で、過疎高齢化が進む高知県梶原町にて4大学合同インターンシップを実施してきました。学生たちは10日間の滞在中に、同町で農作業などを体験しながら、地域とのコミュニケーションを図り、地域の資源を探り、活性化策を検討。その成果を住民に提案するというものです。学生同士の共同生活や議論、地域の方々との出会いという様々な刺激を受けながら、実践的な課題解決能力を磨く機会としています。

この取り組みが、第9回オーライ！ニッポン大賞にて「フレンドシップ賞」を受賞し、3月8日に授章式が行われました。農林水産省、都市と農山漁村の共生・対流推進会議（オーライ！ニッポン会議）が、都市と農山漁村をオーライ（往来）する新たなライフスタイルの普及や定着化を図るため、精力的な交流活動に取り組む団体・個人を表彰する事業です。今回応募のあった96件のうち、18事例が各賞を受賞しました。

東日本震災復興支援に！ 「タオルプロジェクト」 をマネジメント

奇しくも東日本震災からちょうど1年の今年3月11日(日)、復興支援の一環として、佐賀県立杵島商業高等学校の生徒と本学学生が共同で取り組む「タオルプロジェクト」にて企画・製造された1000枚のタオルが台湾から博多湾に到着しました。タオルは同高等学校の生徒がネットや同県内温泉地などで販売し、その収益金を東日本震災の義援金としました。

タオルプロジェクトについては、園弘子准教授（マネジメント学部）が高校に2度の講義を提供しました。また同研究室を中心に有志学生が高校生に対して、低廉な台湾でのタオル製造を提案し、海外との連絡代行やマーケティングサポートを行いました。さらに、園准教授と交流のある台湾の環球技術大学造形学科の学生が製品デザインに協力するなど、国際的な高大連携となりました。

学生たちは高校生とメールやスカイプで幾度となく討議を重ね、昨夏には佐賀を2度訪

問。高校生の議論のファシリテーターを務めたり、佐賀の共栄銀行に企画趣旨をプレゼンし、スポンサーになっていただくなどしました。

このプロジェクトは、学生たちにとって、マネジメントを実践的に学び、社会問題と向き合うよい経験となりました。復興支援タオルは5月末時点で、約950枚を売り上げ、すでに完売間近。学生と高校生は現在も義援金の有効な送り先について話し合うなど、ますます交流が深まっています。

タオルプロジェクトとは……

杵島商業高等学校（佐賀県）が商業実践教育の一環として主催するショッピングモール「がばいよか！きしま学美舎（まなびや）」の活動の中で、同校生徒と本学学生が東日本震災の復興支援として、オリジナルタオルを企画・製造・販売。その収益を義援金とするために企画したプロジェクトです。

“工科大”で“効果大”！？ 「交通安全キャンペーン」に協力

4月14日(土)、ドライバーに交通安全を呼びかける「交通安全キャンペーン」が行われ、香美警察署と本学学生5名が参加しました。

当日は香美警察署長による挨拶の後、香美市在住の漫画家くさか里樹さんと学生それぞれの決意表明が行われました。あいにくの小雨模様でしたが、香美署前を通行するドライバーの方々に、交通安全啓発のチラシや本学オリジナルの軍手、また香美署員の方々が休日の一つひとつ手作りした鍋敷きを“工科大”の学生とともに配布しました。交通安全キャンペーンの“効果大”となるよう、思いが込められています。

秋にも同様の交通安全キャンペーンが予定されており、本学は地域貢献の一環として今後もこうした活動に積極的に参加していきます。

五角形で合格祈願お守りにもなるという優れ物。



伝統の町並みが残る吉良川 「土佐の町家まつり」に参加

3月1日(木)から4日(日)にかけて、高知東海岸の6地域が連携して開催するイベント「土佐の町家まつり」に、本学、高知大学、高知県立大学の3大学の学生らで結成する「sunfes(さんふえす)」のメンバーが参加しました。



学生たちは、吉良川特産の西山金時を使ったお手製の“いもぼん”スタンプラリーや、西山金時のチップ스에アイスに乗せた「芋ばふえ」を販売。地域の方々と交流を深めながらイベントを盛り上げました。吉良川の風情ある町並みや、約80軒もの歴史ある家々に飾られた雛人形を間近に楽しみながら、ノスタルジックな雰囲気を味わえたようです。



本学図書館と香美市立図書館が 相互協力協定を締結

3月14日(水)、香美市役所にて、本学附属情報図書館と香美市立図書館が相互協力に関する協定を締結しました。双方の利用者へのサービス向上と図書館活動の充実を図り、学生や教職員、市民の生涯学習環境を推進させることを目的としています。香美市の時久恵子教育長と本学の篠森敬三附属情報図書館長が協定書への調印を行いました。

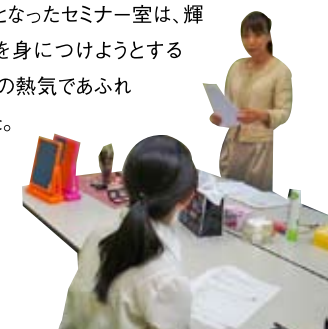
昨年度より、本学から香美市立図書館へ図書の長期貸出を行うなど、少しずつ相互利用を開始していましたが、今回の正式な協定締結により、さらに連携を深め、互いの蔵書資料の有効活用する取り組みを強化していきます。職業や年齢を問わず、多くの方々が日常的に両館を利用いただけることを期待しています。



また会いたいと思わせる！ 就活用メイクセミナー実施

4月18日(水)・19日(木)の2日間、就職活動中の女子学生を対象とした「リクルートメイクセミナー」を開催しました。

参加した9名の学生は、カラーコーディネーターの資格を持つ講師から、採用担当者に好印象をもたれるメイク法や、“また会いたい”と思われる笑顔の作り方などを教わりました。会場となったセミナー室は、輝きと自信を身につけようとする学生たちの熱気であふれていました。

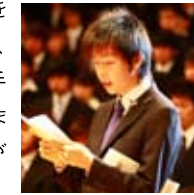


599人の新入生を迎え、 平成24年度入学式を挙行

4月3日(火)、本学講堂にて、平成24年度入学式が行われました。

システム工学群、環境理工学群、情報学群、マネジメント学部を合わせて、学士課程493名、工学部3年次編入6名、大学院修士課程92名・博士後期課程8名の計599名の新入生を迎えました。

式では佐久間学長より、「これからの大学生活を通して自己の能力を高めるとともに、将来の日本を支えるという心構えを持っていただきたい」という告辞があり、入学生代表の中村孝明さん(環境理工学群)からは、「学は光なり」との言葉を胸に刻み、豊かな人間力を育み、頭脳を鍛え、智慧を磨き、社会の善き支え手として育ってまいります」と誓いの言葉が述べられました。



学校インターンシップの未来を問う 公開シンポジウム開催

3月3日(土)、本学講義棟にて、教職課程公開シンポジウム「学校インターンシップの未来を問う～理論知と実践知を結ぶ～」を開催しました。

学校インターンシップとは、教職課程を履修する学生が在学中、長期間にわたり教育現場で教師見習いとして活動する制度です。本学では、教職課程が設置された2008年度当初より「学校サポーター」の名称で同制度を導入しており、これまで約100名の学生が高知県内の小・中・高等学校にて活動しています。本シンポジウムは、同制度の充実を目指し、理論・実践の両面から検証を行い、さらなる発展を探ることを目的としています。県内外から約80名の方にご参加いただきました。

講師として、実際に受け入れを行う県内の学校担当者をはじめ、学校サポーターに精通した研究者をお招きし、国内外の学校インターンシップについての現状報告がなされたほか、学校サポーターを経験した本学学生の発表も行われました。パネルディスカッションでは活発に意見交換が行われ、参加者も熱心に聞き入り、同制度への関心の高さがうかがえました。

オモシロ企画で大盛り上がり！ 学生主催の新入生歓迎会

4月14日(土)、大学祭実行委員会主催で新入生歓迎会が開催され、各学群・学部からたくさんの新入生が参加しました。



イベントでは、親睦を深めるために立食パーティーや毎年恒例のクイズ大会、ビンゴゲームなどを実施。箱の中身を手で触って当てる「ブラックボックス」ゲームでは、触れる恐怖心から出るオーバーリアクションに会場は大爆笑。大いに盛り上がりを見せました。団体紹介コーナーでは、学生団体アカベラサークル「KOCO'A」が歌声を披露したり、よさこい実行委員会がよさこい踊りを演舞するなど、参加者を魅了しました。

イベント終了後も、新入生同士で談笑する姿が見られ、大学祭実行委員会メンバーは、「今回のイベントは非常に満足できる内容でした。この経験を活かし、すでに来年の内容についても構想しています」と早くも来年の新入生を迎える準備に意欲を見せていました。

ソフトボール部が 全国大会出場権を獲得！

ソフトボール部(男子)は5月26日(土)・27日(日)、「第47回全日本大学選手権大会兼第44回西日本大学選手権大会四国予選会」(主催:四国地区大学連盟 会場:高知県立春野総合運動公園)において優勝を果たし、創部初となる全国大会出場の出場権を獲得しました。同部は、5月12日・13日に行われた四国春季大会を制し、この予選会に照準を合わせてきました。過去に2度、西日本大学選手権大会への出場経験があるものの、いずれも一回戦で惜敗。全国大会出場を目標に活動を続け、つかみとった結果に主将の大坂基樹君(システム工学群3年)は、「ここまで支えていただいたOB・地域の方々に感謝したい。全国大会では楽しく、元氣よく、工科大らしさを出して、1つでも上の順位を目指したい。」と抱負を語っています。



さらなる多分野交流へ 安徽大学訪問団が来学

5月10日(木)、中国・安徽大学より、書記の黄徳寛(Huang Dekuan)氏、国際交流処処長の徐鳴(Xu Ming)氏をはじめ、6名の訪問団をお迎えしました。

佐久間学長、八田国際交流センター長、王碩玉教授、伴特任教授、李朝陽准教授らとの面談、記念品の贈呈の後、研究施設を中心に学内をご案内しました。

今回のご訪問により、将来の大学間交流協定締結を視野に入れた多分野の交流および、今年秋頃には本学の代表団が安徽大学を訪問することについて合意しました。



女子はインカレ出場権獲得 卓球部が四国学生卓球選手権大会で活躍!

卓球部が、5月11日(金)・12日(土)に行われた「第46回春季リーグ四国学生卓球選手権大会 兼全日本大学総合卓球選手権大会(団体の部)予選会 兼三地区(中国・四国・九州)学生卓球選手権大会予選会」(主催:四国学生卓球連盟 会場:愛媛県武道館)に出場し、同部(女子)はI部リーグ(団体の部)で優勝を果たし、見事、全国日本大学総合卓球選手権大会(インカレ)出場権を獲得しました。同部(女子)のインカレ出場は昨年に引き続き2度目。昨年は予選リーグで敗退したため、今年は決勝トーナメント戦進出に向けて頑張っています。同大会で三冠を達成(団体I部優勝、ダブルス優勝、シングルス優勝)した松山明花さん(マネジメント学部2年)は、「今年こそインカレでは予選リーグを突破し決勝トーナメントに進出したい。また、三地区大会では、四国大会同様三冠を達成したい。」と今後に向けた気持ちを聞かせてくれました。

また、同部(男子)は同大会でI部リーグ(団体の部)三位という結果を残し、三地区大会への団体戦の初出場権を獲得しました。



三嶺の森と山々を守る シカ被害防止活動に参加

4月29日(日)と5月26日(土)の2日間、本学学生と教職員66名が、「三嶺の森をまもるみんなの会」主催のシカ被害防護ネット張り作業に参加しました。

作業場所は香美市の白髪山と、高知県と徳島県の県境にある平和丸登山道周辺です。急激に増加したシカにより、山頂付近はどれも希少植物等が被害を受け、深刻な状況が続いています。今回はその現状を目の当たりにしました。

作業場所は香美市の白髪山と、高知県と徳島県の県境にある平和丸登山道周辺です。急激に増加したシカにより、山頂付近はどれも希少植物等が被害を受け、深刻な状況が続いています。今回はその現状を目の当たりにしました。

学生らは急斜面でのネット張りに苦戦していましたが、懸命に作業を進めながら積極的に質問する姿も。地元が抱える問題に触れ、解決に向けた取組を体験する貴重な経験となったようです。この作業によって、直ちにシカの食害防止に効果があるわけではありませんが、長い目で見た自然の回復の一助として、今後も協力を続けていきます。



バレーボール部が四国大学 リーグでI部昇格!

バレーボール部(男子)が、5月12日(土)・13日(日)に行われた「第41回四国大学バレーボール春季リーグ戦大会」(主催:四国大学バレーボール連盟 会場:高知県立大学体育館)のII部リーグで優勝。入替戦でも勝利し、みごとI部リーグ昇格を果たしました。同部は4月30日に行われた「天皇杯全日本選手権県予選」を初制覇し、9月に行われる四国ブロックラウンドの出場権を獲得したばかり。この勢いを維持し、四国の代表を勝ち取ってほしいものです。

同部主将の岡田知也君(環境理工学群4年)は、「以前から目標にしていたI部昇格を達成することができてよかったです。チームのメンバー全員が基本を忠実とした横着のないプレーができていました。応援に来てくださったみなさん、ありがとうございました。これからも高知工科大学バレーボール部は精進を続けて頑張ります。」と喜ぶとともに、すでに今後に向けた気持ちを聞かせてくれました。



小学生からは歓声も! 天文部による 金環日食イベント

5月21日(月)、天文部「Space.Lab(スペース・ラボ)」の学生が、本学に隣接する片地小学校グラウンドで、児童らを対象に、金環日食を観測するイベントを実施しました。

集まったのは、児童・保護者合わせて約100名。学生から日食の起こる仕組みや、観測時の注意点などが説明されて観測が始まりましたが、当日の天候は、天気予報どおりの「くもり」。一時は厚く暗い雲に太陽が覆われていましたが、日食のピーク時には見事な「金の環」が観測でき、子どもたちからは、「見えた!見えた!」と歓声が起こる場面もあり、歴史的な天体ショーを楽しんでいました。

同部代表の浜田康平くんは「金環日食が次に日本で見られるのは約300年後。今日の観測が、少しでも多くの人の思い出になればと思います」と話してくれました。

同部は、全国で唯一プラネタリウム施設のない高知県で、小中学生を対象に、直径約30センチの調理用ボウルで制作した投影機と、換気扇で膨らませる布製エアドームからなる学生手作りのプラネタリウムを使って、県内各所で星座解説や星空観測会などの活動を続けています。



科学文化の進展に貢献 佐久間学長が 「本多記念賞」を受賞

本学の佐久間健人学長が、公益財団法人本多記念会「第53回本多記念賞」を受賞し、贈呈式が5月30日(水)に行われました。本多記念賞は、理工学、特に金属及びその周辺材料に関連する研究を行い、科学文化の進展に卓抜な貢献をした者に与えられる栄誉ある賞です。今回の受賞は、構造用セラミック材料の微細組織制御および高温力学特性に関する研究の長年の功績とその成果が評価されました。



お茶に生け花、神社仏閣まで 留学生が日本文化を体験

留学生日本文化研修の一環として、留学生と国際交流に興味のある本学の日本人学生が、日本文化を体験する様々なイベントに参加しました。

2月29日(水)から3月2日(金)にかけて、奈良京都日本文化研修旅行として、世界遺産に登録された平等院鳳凰堂、八坂神社、清水寺、二条城、金閣寺等を見物。日本人学生は、留学生たちから次々に出される神社仏閣についての難しい質問に戸惑いながらも懸命に英語で答えていました。

4月29日(日)には高知市文化プラザかるぼーとで開催された「春のいけばな展」にて、華道協和会の方々に展示作品や華道について解説していただき、生け花を体験。道具の使い方や生け方の説明を受けました。さらに、5月26日(土)には、土佐石州茶道教室で、石州流の先生方から抹茶の立て方や作法について学び、日本独特の世界を味わいました。参加した学生たちは、日本文化を通じて共感し、お互いの国の話も交えながら、交流を深めたようでした。

オープンキャンパスのお知らせ

OPEN CAMPUS 2012

FREE BUS
高知工科大学まで
無料バスで運行!!

世界はここまで進んでいる!
「日本にない大学。」を体験する一日!

今年もオープンキャンパスを開催します! 当日は、おもしろ体験授業、研究室自由訪問、先輩が案内するキャンパス見学ツアー、入試・奨学金相談コーナーなどたくさんのイベントを準備しています。無料送迎バスも運行しますので、ぜひご利用下さい。

7.22 sun 11:00~15:30
8.26 sun 11:00~15:30

▶ 研究室自由訪問/体験授業 体験実験 ▶ まるごと体験授業

大阪、姫路、岡山、広島、福山の各地と高知工科大学を結ぶ無料送迎バスを運行します。

※乗車には申込みが必要です。

お問い合わせは……

入試・広報部 0887-57-2222
http://www.kochi-tech.ac.jp/kut_J/nyushi/ug/oc/oc.php

新連載企画!

イイスキギ センセイ

Vol.1

先生自身が日々感じていることを、
ちょっとイイスキギなくらい
語ってもらいました!

今回言い過ぎる人
ほりさわ さかえ
堀澤 栄センセイ



日本にない大学にジョシからイイスキギしてみた。

開学から15年、大学づくりにかかわってきた方々の努力で、今の工科大がある。今年も、食堂が変わった、武道場が出来た、と変化し続けていることは確かだろう。皆様のご努力には感謝するばかりである。しかしあえて女子の目線から大学を見たらどうか。工科大は男子が多いが、マネジメント学部ができて、公立化して、女子も増えきたように思う。そこで女子目線の工科大を検証。工科大はキャンパスに自信があるようだ。確かに美しいキャンパスであるが、その美しさには学生が集う演出が少ないと思う。池のまわりに配置されたベンチ、悪くないけれど暑い、特に夏は。もっと木陰とバラソル、ガーデンテーブルが欲しいところだ。食堂のまわりにあるって? 違うのよ、バラソルがないじゃない。女子としては日焼けが恐くて外では集えない。至る所にバラソルとベンチを置いてほしい。ついでにハート対策をお願いするのはイイスキギ? iPadが出た時、学生に配布して欲しいと思った。教科書や講義の資料はすべてiPadで。出席も取れるし、授業にコメントもできる。紙の使用量が減るし、学生は重たい教科書から開放され、調べものもラク。女子は荷物が多いので、カバンの中身は少しでも軽くなると思う。他、大学や高校で導入されているし、学生の利益になるなら考えてみたらどうだろう。(分厚すぎる教科書を使っているのは私です。ゴメン。)

最後に、樹木について。K棟北側にはかつて、カツラの木が植えてあった。葉がハート型で、秋に黄変するとキャラメルのような香りがある。萌芽力が強いことから、学生の成長や大学の発展を祈念して植えたのだと思っていたら、土壌改良工事の後はイチョウに入れ替えられていた。実はいい具合に腐朽菌にやられて、私の格好の研究材料だったのに。あれ? あんまり女子とは関係ないか。ちなみに健全なカツラは学内の各所に移植されているようです。

ジョシからの意見を大切にしていま〜す!!



イイスキギジャッチ
高知工科大学
広報担当 前田さん

オシマイ

平成24年度高知工科大学後援会総会

4月3日(火)、入学式終了後、本学講堂にて平成24年度高知工科大学後援会総会が開催されました。本学の富澤教育本部長の挨拶の後、西森監事の退任に伴い、新役員に入福敬司氏、岡田浩彦氏の2名が退任されました。議事では、平成23年度事業報告・決算報告及び平成24年度事業計画・予算についての審議が行われました。

事業報告については、従来より行っている学生の課外活動や就職活動に対する支援のほか、高知県が全国に先駆けて提唱している協働の森事業に対する支援について報告がなされました。

今年度も、引続き学生の課外活動や就職活動への支援、地域交流事業等へ助成を行うことなどが承認されました。なお、平成21年度に完成しました大学応援歌は、総会にてCDが配布され、今後も様々な場面で演奏される予定です。

平成23年度決算及び平成24年度予算は下記のとおりです。

平成23年度決算 (内は内訳額)

科目	予算額	決算額	増減	摘要
会費	25,382,000	24,568,000	△ 814,000	50,000円×483名、38,000円×編入生11名
雑収入	5,000	17,509	12,509	預金利息等
過年度収入	2,200,000	300,000	△ 1,900,000	12~14期生50,000円×6名
特別会計繰入金	8,000,000	8,000,000	0	平成23年度卒業記念事業費等
繰越金	3,316,278	3,316,278	0	
合計	38,903,278	36,201,787	2,701,491	

科目	予算額	決算額	増減	摘要
会議費	250,000	224,425	25,575	理事会等会議費(224,425)
事務費	500,000	373,074	126,926	印刷費(95,000)・郵送費(9,674)・手数料(33,916)・会費返還金(215,000)・その他(19,484)
課外活動助成金等	5,500,000	4,957,468	542,532	課外活動助成金(2,850,000)・課外活動特別助成金(2,061,516)・課外活動奨励補助(45,952)
施設・備品等整備費	1,500,000	1,099,218	400,782	行事用備品(260,400)・図書等整備支援費(399,918)・施設等整備費(438,900)
学園生活等支援事業費	2,700,000	1,557,565	1,142,435	学生サポート等支援費(153,400)・学生表彰等助成金(1,094,625)・地域交流事業助成金(309,540)
大学祭等助成金	2,350,000	1,907,500	442,500	新入生歓迎交流会等助成金(707,500)・大学祭実行委員会への助成金(800,000)・よさこい祭り参加経費助成金(400,000)
卒業記念事業費	9,300,000	8,166,125	1,133,875	卒業記念行事助成金(1,800,000)・卒業記念事業(200,000)・卒業記念品費(6,166,125)
就職先開拓費	1,000,000	679,926	320,074	就職活動等支援費(679,926)
特別会計繰出金	15,000,000	15,000,000	0	卒業記念行事経費・周年事業費等積立(15,000,000)
予備費	803,278	600,000	203,278	予備費(600,000)
合計	38,903,278	34,565,301	4,337,977	

一般会計繰越金 1,636,486

科目	予算額	決算額	増減	摘要
前年度繰越金	46,925,607	46,925,607	0	預金利息含む
雑収入	30,000	31,355	1,355	定期預金利息
一般会計繰入金	15,000,000	15,000,000	0	卒業記念事業費、周年事業費等
合計	61,955,607	61,956,962	1,355	

科目	予算額	決算額	増減	摘要
一般会計繰出金	8,000,000	8,000,000	0	平成23年度卒業記念事業費
合計	8,000,000	8,000,000	0	

特別会計繰越金 53,956,962

繰越総額 55,593,448

平成24年度予算 (内は内訳額)

科目	予算額	前年度決算額	増減	摘要
会費	25,266,000	24,568,000	648,000	新入生50,000円×500名、編入生38,000円×7名
雑収入	50,000	17,509	32,491	預金利息等
過年度収入	300,000	300,000	0	13~15期生未納者36名
特別会計繰入金	11,800,000	8,000,000	3,800,000	平成24年度卒業記念事業費等
繰越金	1,636,486	3,316,278	△ 1,679,792	
合計	39,052,486	36,201,787	2,800,699	

科目	予算額	前年度決算額	増減	摘要
会議費	550,000	224,425	325,575	理事会等会議費(550,000)
事務費	420,000	373,074	46,926	印刷費(120,000)・郵送費(20,000)・手数料(30,000)・会費返還金(兄弟姉妹入学半額等)(200,000)・その他(50,000)
課外活動助成金等	5,500,000	4,957,468	542,532	課外活動助成金(2,500,000)・課外活動特別助成金(2,800,000)・課外活動奨励補助(200,000)
施設・備品等整備費	4,200,000	1,099,218	3,100,782	行事用備品(300,000)・図書等整備支援費(400,000)・施設等整備費(3,500,000)
学園生活等支援事業費	4,600,000	1,557,565	3,042,435	学生サポート等支援費(500,000)・協働の森事業(500,000)・学生表彰等助成金(1,100,000)・地域交流事業助成金(2,500,000)
大学祭等助成金	2,350,000	1,907,500	442,500	新入生歓迎交流会等助成金(750,000)・大学祭実行委員会への助成金(800,000)・よさこい祭り参加経費助成金(800,000)
卒業記念事業費	8,800,000	8,166,125	633,875	卒業記念行事助成金(1,800,000)・卒業記念事業(200,000)・卒業記念品費(6,800,000)
就職先開拓費	1,000,000	679,926	320,074	就職活動等支援費(1,000,000)
特別会計繰出金	11,000,000	15,000,000	△ 4,000,000	卒業記念行事経費・周年事業費等積立(11,000,000)
予備費	632,486	600,000	32,486	予備費(632,486)
合計	39,052,486	34,565,301	4,487,185	

科目	予算額	前年度決算額	増減	摘要
前年度繰越金	53,956,962	46,925,607	7,000,000	
一般会計繰入金	11,000,000	15,000,000	△ 4,000,000	卒業記念事業費、周年事業費等
合計	64,956,962	61,956,962	3,000,000	

科目	予算額	前年度決算額	増減	摘要
一般会計繰出金	11,800,000	8,000,000	3,800,000	平成24年度卒業記念事業費等
合計	11,800,000	8,000,000	3,800,000	

重要なお知らせ

マネジメント学部の キャンパス移転(平成27年4月)について

高知工科大学では、平成27年4月に予定している、マネジメント学部の改組拡充による高知県立大学永国寺キャンパス(高知市永国寺町)での社会科学系学部設置(現行マネジメント学部の全面移転)に向けて本格的な準備を始めることになりました。

今年度の入学式後の保護者説明会でご説明した通り、平成24年度入学生は3年次までは本学キャンパス、4年次からは永国寺キャンパスで学ぶこととなります。また、現在2年次以上(平成23年度までに入学)の学生が平成27年4月以降に在籍する場合についても同様に、永国寺キャンパスで学ぶこととなります。永国寺キャンパス移転後も、教育環境は当然のこと、教務、学生支援、就職支援などについても引き続き充実した体制となるよう取り組みます。

移転後の体制等、関連する事項については、これから準備・検討を進める中で、決定次第、随時情報発信を行ってまいりますので、皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。



〈協働の森〉



〈食堂整備支援〉



〈よさこい祭り参加〉

後援会費のお知らせ

後援会は、保護者の皆様からの会費をもちまして、学生が有意義な学生生活を送れるよう支援する事業を行っております。会費を納入されていない方が若干おられますので、会費の納入についてご理解とご協力の程、よろしく申し上げます。

会費は、学生活動(大学祭・クラブ活動・図書館書籍の整備など)や就職活動の支援、また、卒業記念事業として卒業記念品(卒業アルバム)の作成などに使わせていただいております。

なお、兄弟姉妹で在学中の方は、あとで入学された方の会費の半額を返還しております。兄弟姉妹で在学中の方は、学生支援部(0887-53-1118)へご連絡ください。

訂正とお詫び

4月3日開催の総会資料では、平成24年度予算の歳入の部の会費決算額を誤って、前年度決算額(会費)24,618,000円、(合計)36,251,787円と記載しておりました。正しくは、前年度決算額(会費)24,568,000円、(合計)36,201,787円となります。訂正してお詫び申し上げます。

見たい! 聞きたい! 知りたい! 工大あちこち探訪レポート

「スーパーコンピュータ(スパコン)」とは、普段私たちが使うパソコンよりも演算能力(計算処理能力)が高いコンピュータです。そのスパコン、なんと工大にあるのです。今回は、実際にスパコンを使用して研究されている情報学群の松崎公紀准教授にお話を伺いました。

一般的には、コンピュータの売り上げ管理など大量データの整理に使用されています。本学でも高度な計算が必要となる研究に使用したり、テレビにとり上げられた津波のシミュレーションにも使用したりと、様々な分野で活躍しています。海外の大学では、「数独」研究にスパコンが活躍したんですよ。

数独とは、9×9の盤面に1~9までの数字を入れていくパズルのこと。私たちも何度かチャレンジしたことがあります! 難易度によりますが、

「もっと詳しく〜スパコン」

松崎先生いわく、「スパコンとは大雑把に言えば、普通より凄いいののこ間違ってました。通常のパソコンの計算処理能力を1とする」と、スパコンで使っているものは最低でもその4倍、32台組み上げられていたので、単純に計算しても4倍×32台=128倍の処理能力を持つということになるそうです。しかもプログラム次第では処理能力が50倍になるらしく、50倍×32台=1600倍!?とどれだけ凄いですか??

とにかくすごい! 「スパコン」って何?

工学系のシミュレーション研究は、計算に費やす時間が半分以上ととか。学生達がこのスパコンを上手に活用して、研究にかかるデータ処理時間を短縮し、その空いた時間を有効に使ってもらいたいですね。」と松崎先生。実際世の中の間との戦いですから、スパコンは頼もしい増援部隊ですね! 教員だけではなく、学生が関わる

「卒論にシミュレーション?」

工学系のシミュレーション研究は、計算に費やす時間が半分以上ととか。学生達がこのスパコンを上手に活用して、研究にかかるデータ処理時間を短縮し、その空いた時間を有効に使ってもらいたいですね。」と松崎先生。実際世の中の間との戦いですから、スパコンは頼もしい増援部隊ですね! 教員だけではなく、学生が関わる

KUT 学生特派員 報告 SPECIAL REPORT REPORT 11

SUPER REPORTERS !!



学生特派員 後: 後藤夏実さん(環境理工学群3年) 前: 寺原春菜さん(環境理工学群3年)

これがKUTのスパコンだ!

情報学群 松崎公紀准教授



ジッカンnote

後藤 クーラーが効いた涼しい部屋だったね。床には通風孔があってすごい勢いで風が吹いてたし。

寺原 松崎先生によると、あの冷却システムがなかったら、室温がかなり上がるそうだよ。PlayStation3を64台一気に稼働した温度になるんだって。

後藤 えっ! 64台!? ...ってどのくらいの熱さなんだ!?

寺原 要するに、スパコン自体が耐えられないくらい熱くなるということだよー!

プロジェクトも利用申請ができるそうです。工大ではそんな最先端機器に触られる機会があります。さっそく研究室の先生に頼んでみましょう!



まちの KUT 応援団

がんばらね! 工科大⑤

Machi no KUT Ouen-Dan Report

今回のインタビューは、奥ものべを楽しむ会の会長を務める公文寛伸さん。地域活性化を願い、廃道となっていた塩や雑貨を運んだかつての往還道(塩の道)を地域住民の方々と復活させるなど、さまざまな活動をされています。現在は、地域共生概論の講義をさせていただいたり、地元の方との交流会(まんぶく会)に学生たちを招いてくださったり…。「なぜこんなにも学生のために協力して下さるのか。大自然の中にたずむ憩いの館「温故庵」でゆったりと寛ぎながら、お話しをお伺いしました。



今回のインタビュー— マネジメント学部
教授 渡邊 法美

— 高知工科大学の学生にどんな印象をお持ちですか。

学生さんに「過疎化が深刻化する物部町のことを卒論に書きたい」と相談された時にはびっくりしました。工科大の学生いうたら、最新技術とかそういうことを書くがやろうと思うちょっとさね。心配してくれゆうことが嬉しかったね。

地域おこしとかいろんな活動をするとき、地域のもん(者)だけじゃたら“おじい”“おばあ”しかおらんのじゃけど、学生さんたちが来てくれて、手伝ってくれるのは本当にありがたいことですよ。若い人達の新しい情報や考えも聞きたいし、ここだけじゃなしに他の地域にも力を貸してほしいです。

— 地域共生概論の講義では、山の道具や古銭、昔の地図など“現物”を見せてくださいますが、それはなぜですか。

「百聞は一見に如かず」という言葉があるように、僕の言葉が足りなくても、実際に見てもらう方が足りなたらわかってもらえると思うてね。

牛糞なんかを持って行けば、昔、これを使うて香長平野を耕しよったとわかるろう。できる準



応援団員 05 奥ものべを楽しむ会 会長 公文寛伸さん

75年生きてきて、若い人に話しておかんといかんことがある。

備は怠らない。全力をつくせば失敗しても後悔することはない。これは講義だけじゃなしに、すべてにおいて言えること。塩の道の会や奥物部を楽しむ会でも、リーダーを務めるからにはその組織の命運がかかっておる。リーダーは人の3倍働くことによって認めてもらえるし、ついてきてくれると思うがよ。お客さんに塩の道を案内するにしても、案内するまでに自分で現地へ行って下見をする。すべてにおいて精一杯のことをやりたいですね。



塩の道の無農薬ゆすと田野町の塩二郎という塩を使用した人気の「しおゆずマーメイド」の商品開発に公文さんはリーダーとして関わっていらしゃいます。

— 学生たちとのふれあいで嬉しいことはありますか。

僕なりに生きてきた経験や体験を、十分に分かってもらえなくても、一人でも多くの人に話して、日本の昔からの良さを継承したい。そういうことを、これからの日本をつくる若い人に伝えられることが嬉しいんですよ。



紫翠園の中にある「温故庵」は公文さんが建てたものだ。名前は温故知新からとったそう。

自分がそういったことをしないとどんどん廃れ壊れていく気がする。若い人達には“坂本龍馬”とまでは言わんけど、「俺がなんとかせにゃあ!」と思うようになって欲しい。そういうことを訴えたいのよ。

— 工科大生にどんなことを期待されますか。

大学時代の4年間で、地域を知ってもらい、地域の人たちと関わりを持って欲しい。学生さん自身にとっても、地域の中での活動が将来社会に出た時に何か役に立つこともあるだろうし、その時の交流が将来に繋がっていくんじゃないかと期待しています。

インタビューを終えて

今回お話を伺って、自分から「まだまだ修行が足りない」と言われているような気がし、これから、学生たちと一緒に私も勉強させていただきながら、素晴らしい地域の人々や風景を後世に残していくことが大学の役割の一つである、と思いました。